



# 2022

環境活動レポート 2022年度

Environmental Activity Report

発行日 : 2022.11.20

対象期間 : 2021.10.1~2022.9.30

## 未来のための環境創造企業 Create the Future

創業当時のわが社の基本理念である『より良い環境を次世代に継いで行く』

「エコアクション21」のプログラム運用は、この基本理念を遂行していくうえで欠かせないものであり、2019年からはSDGs（持続可能な開発目標）を本プログラムの運用と連携させ、事業活動の中に自然と溶け込む仕組みとしました。

とりわけ環境の取り組みは、事業活動に「特別なプラスワン」の目標遂行が求められますが、社員個々人の活動こそが環境貢献であると考えております。

これらを持続するために「社会から必要とされ続ける企業、一員」としてあらゆるステークホルダーへの協力と協調の輪を広げる努力をしております。

そして、次なるテーマ

### 「環境開発工業的」、Revive ourselves

好奇心、合理性へのマニアックなまでの追及が、私たちそしてこの業界を劇的に変え

次世代に継いで行く・・・

# Table of Content

01

## 組織の概要

事業所名、代表者名、創立、所在地、資本金、環境管理責任  
事業内容、事業規模、認証登録範囲、対象組織図

02

## 許認可

1. 収集運搬業
  - 1-1. 収集運搬業 積み替え保管場所一覧
  - 1-2. 許認可別車両一覧
2. 産業廃棄物処分業
  - 2-1. 産業廃棄物処分業保管場所一覧
  - 2-2. 産業廃棄物処分フロー図
  - 2-3. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬の実績（2022年度）
  - 2-4. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物処理の実績（2022年度）
3. 建設業（とび・土工工事業）

03

## 環境方針

04

## 環境活動計画

05

## 環境目標・実績

- 5-1. 2022年度目標及び取組み結果
- 5-2. 年度別環境目標（中期3か年）

06

## 環境活動結果とその評価、 次年度の取組み内容

07

## 環境関連法規等の順守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- 7-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果
- 7-2. 違反・訴訟の有無

08

## 代表者による見直しと評価の結果

- 8-1. 代表者による全体評価と見直し
- 8-2. 代表者による総括

# 1. 組織の概要

事業所名、代表者、創立、所在地、資本金、環境管理責任者、事業内容

1. 事業所名 環境開発工業株式会社 (かんきょうかいはいつこうぎょう)

2. 代表者名 代表取締役 長谷川 徹 (はせがわ とおる)

3. 創立 1976年(昭和51年)5月19日 【創業46年】

4. 所在地 〒061-1111 北海道北広島市北の里41番地27

5. 資本金 4,800万円

6. 環境管理責任者 取締役 統括部長 佐々木 リサ  
【連絡先】TEL : 011-373-2728 FAX : 011-373-2499  
E-Mail : lisa@kklp.co.jp

7. 事業内容

- ① 廃油(潤滑油)収集運搬・再生重油製造販売事業
- ② 産業廃棄物及び収集運搬・処理(リサイクル)事業
- ③ 一般廃棄物及び収集運搬・処理(リサイクル)事業
- ④ 特別産業廃棄物(低濃度PCB含む)収集運搬事業
- ⑤ 廃OA機器、廃消火器リサイクル事業
- ⑥ 油漏えい事故対応事業(建設業許可 とび・土工事業)
- ⑦ 一般貨物自動車運送事業



1976年5月19日、創業者：長谷川四郎により産業廃棄物収集運搬処理事業、再生重油販売事業を目的として「㈱廃油処理センター」の名称にて事業開始  
1986年、現在の社名である「環境開発工業㈱」に名称変更



# 1. 組織の概要

事業の規模、認証登録範囲

## 8. 事業の規模

活動項目		2020年度 2019.10~2020.9	2021年度 2020.10~2021.9	2022年度 2021.10~2022.9
産業 廃棄物	収集運搬量	6,956.3 t	7,902.0 t	7,417.0 t
	中間処理量	4,517.5 t	4,786.5 t	4,578.6 t
一般 廃棄物	収集運搬量	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	処理量	0.5 t	0.4 t	0.7 t
建設業	工事件数	9.0 件	28.0 件	40.0 件
売上 高	産廃部門	1,141.4 百万円	1,069.9 百万円	1,157.0 百万円
	建設部門	47.8 百万円	422.8 百万円	147.0 百万円
	TOTAL	1,189.2 百万円	1,492.7 百万円	1,304.0 百万円
従 業 員 数	正社員	62.0 名	64.0 名	64.0 名
	臨時職員	32.0 名	32.0 名	32.0 名
	合計	94.0 名	96.0 名	96.0 名
総敷地面積		21,099.6 ㎡	21,099.6 ㎡	21,099.6 ㎡
床面積		4,077.6 ㎡	4,077.6 ㎡	4,077.6 ㎡

■収集運搬量と中間処分量比較



■産廃部門と建設部門の売上構成



## 9. 認証登録範囲

登録組織名  
認証の範囲

環境開発工業株式会社

再生重油製造販売事業、産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、  
一般廃棄物・産業廃棄物の処理（リサイクル）業、油漏えい事故対応事業、一般貨物自動車運送業

# 1. 組織の概要

## 対象組織図

### 10. 対象組織図



代表取締役	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.環境方針の制定及び改定</li> <li>2.環境管理責任者の任命</li> <li>3.環境マネジメントシステム (以下、EMS)に必要な資源の決定と提供</li> <li>4.全体の評価と見直しの実施 (指示)</li> </ol>
環境管理責任者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.EMSの統括</li> <li>2.環境活動計画の推進と検証</li> <li>3.組織に関わるステークホルダーへの情報発信及び回答</li> <li>4.環境上の問題点の明確化と解決策の提案</li> <li>5.全社に対するEMSの運用、進捗状況の報告</li> <li>6.担当部署内のEMSの統括</li> </ol>
各部門	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.目標及び活動計画の立案と推進</li> <li>2.担当部署内のEMSの運用、進捗状況の報告</li> <li>3.環境方針の理解と環境目標達成の推進</li> <li>4.環境活動への積極的参加</li> <li>5.担当業務で生じた環境活動に関する事項の報告</li> </ol>



01

資源リサイクル部の創設

品目ごとに分けていた産廃リサイクル課とOAリサイクル課であったが、課毎同様に行っていた業務を一本化し、更なる資源循環を目指し合併

02

環境リサイクル部の創設

従来「ER課」として営業部の所属としていたが、当社の新たな柱として事業活動に沿った名称「環境リサイクル部」の名で部として独立

## 2. 許認可

### 収集運搬業（許可番号、取り扱い品目）

#### 1. 収集運搬業

##### 【産業廃棄物収集運搬業】

優良事業者認定取得済

- 許可番号 北海道 第00110004747号
- 許可の年月日 2021年（令和 3年）6月29日
- 許可の年月日有効年月日 2028年（令和10年）6月28日

##### 【特別管理産業廃棄物収集運搬業】

優良事業者認定取得済

- 許可番号 北海道 第00160004747号
- 許可の年月日 2020年（令和2年）8月28日
- 許可の年月日有効年月日 2027年（令和9年）8月22日

##### 【一般廃棄物収集運搬業】

- 許可番号 北広島市 北広環境指令第180号
- 許可の年月日 2021年（令和3年）12月 8日
- 許可の年月日有効年月日 2023年（令和5年）12月 7日
- 許可品目 家庭用廃パソコン、廃食用油、廃潤滑油



許可品目	産業廃棄物区分							
	産業廃棄物			特別管理産業廃棄物				
	許可	積保	石綿含有	特管	積保	有害	PCB	石綿
燃え殻	●	-	-	-	-	-	-	-
汚泥	●	●	-	●	●	●	22種類	-
廃油	●	●	-	●	●	●	11種類	◎
廃酸	●	●	-	●	●	●	22種類	-
廃アルカリ	●	●	-	●	●	●	22種類	-
廃プラスチック類	●	●	◎	-	-	-	-	◎
紙くず	●	-	-	-	-	-	-	-
木くず	●	-	-	-	-	-	-	-
繊維くず	●	-	-	-	-	-	-	-
動物性残さ	●	-	-	-	-	-	-	-
ゴムくず	●	-	-	-	-	-	-	-
金属くず	●	●	-	-	-	-	-	◎
ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず	●	●	◎	-	-	-	-	-
鉱さい	●	-	-	-	-	-	-	-
がれき屑	●	●	◎	-	-	-	-	-
動物のふん尿	●	-	-	-	-	-	-	-
動物の死体	●	-	-	-	-	-	-	-
ばいじん	●	-	-	-	-	-	-	-
(廃石綿等)	-	-	-	-	-	-	-	●

◎ → 低濃度ポリ塩化ビフェニル等、汚染物に限る

◎ → 石綿含有産業廃棄物を含むもの

## 2. 許認可

### 収集運搬業（積み替え保管場所一覧）

#### 1-1 収集運搬業 積み替え保管場所一覧

産業廃棄物収集運搬 積み替え保管場所				
No	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
保管場所1	廃油	10.00	4.80	容器保管
保管場所2	汚泥	47.00	10.00	容器保管
保管場所3	金属くず	10.00	6.00	容器保管
保管場所4	廃プラスチック類	100.00	83.30	3.00
保管場所5	がれき類	20.00	3.20	容器保管
保管場所6	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず(廃OA機器、廃遊技機に限る)	212.40	126.00	屋内保管
保管場所7	金属くず、汚泥、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず、 廃プラスチック類(水銀使用製品産業 廃棄物であるものを含む)	18.00	9.30	屋内保管
保管場所8	金属くず	48.58	30.00	2.90
保管場所9	廃油	20.00	10.00	容器保管
保管場所10	廃アルカリ	1.80	1.00	容器保管
保管場所11	廃酸	1.80	1.00	容器保管
保管場所12	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず(廃OA機器、廃遊技機に限る)	75.00	124.00	屋内保管
保管場所13	金属くず	40.00	39.00	容器保管
保管場所14	廃プラスチック類	50.00	80.00	容器保管
保管場所15	金属くず	33.50	40.00	2.50

特別管理'産業廃棄物収集運搬 積み替え保管場所				
No	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
保管場所1	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	5.96	1.931	容器保管
保管場所2	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	10.00	4.80	容器保管
保管場所3	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	1.00	0.20	屋内保管
保管場所4	廃酸（特定有害産業廃棄物）	1.00	0.60	屋内保管
保管場所5	廃アルカリ（pH12.5以上のもの）	1.00	0.60	屋内保管
保管場所6	廃アルカリ（特定有害産業廃棄物）	1.00	0.60	屋内保管
保管場所7	汚泥（特定有害産業廃棄物）	1.00	0.60	屋内保管
保管場所8	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	1.21	0.20	屋内保管
保管場所9	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	4.84	1.60	屋内保管

品目別積み替え保管場所	産廃	特管	合計
廃油	2 箇所	2 箇所	4 箇所
廃プラスチック類	2 箇所	0 箇所	2 箇所
金属くず	4 箇所	0 箇所	4 箇所
汚泥	1 箇所	1 箇所	2 箇所
がれき類	1 箇所	0 箇所	1 箇所
廃アルカリ	1 箇所	2 箇所	3 箇所
廃酸	1 箇所	4 箇所	5 箇所
混合物	3 箇所	0 箇所	3 箇所
積み替え保管場所合計	15 箇所	9 箇所	24 箇所

## 2. 許認可

### 収集運搬業（許認可車両一覧）

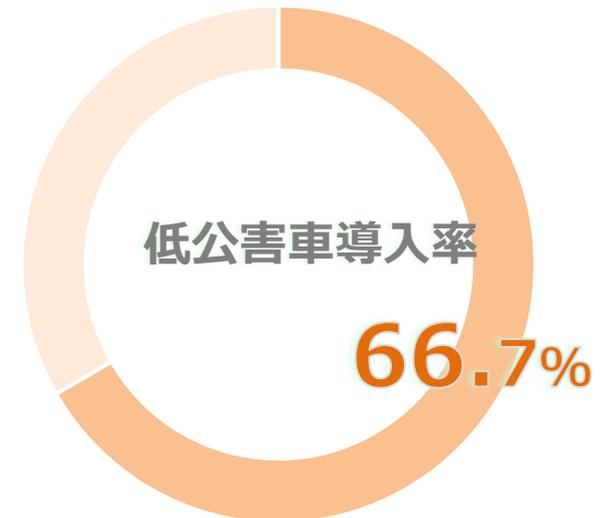
#### 1-2 許認可別車両一覧

車両形状	台数	最大積載重量 【単位：t】	許認可別収集運搬車両台数		
			普通	特管	一般貨物
キャブオーバー	11 台	4.70 ~ 11.70	11 台	11 台	3 台
タンク車	11 台	3.00 ~ 12.32	11 台	2 台	0 台
塵芥車	1 台	2.40 ~ 2.40	1 台	0 台	0 台
バン	13 台	0.50 ~ 4.90	13 台	13 台	3 台
ステーションワゴン	3 台	0.17 ~ 0.22	3 台	3 台	0 台
<b>TOTAL</b>	<b>39 台</b>	-	<b>39 台</b>	<b>29 台</b>	<b>6 台</b>

※産業廃棄物収集運搬業の認可を受けていない車両は除く



環境達成区分	キャブ オーバー	タンク車	塵芥車	バン	ステーショ ンワゴン	箱型 (乗用車)	TOTAL
平成22年度燃費基準10%向上達成車	台	台	台	1 台	1 台	台	2 台
平成22年度燃費基準15%向上達成車	台	台	台	台	台	台	0 台
平成22年度燃費基準25%向上達成車	台	台	台	台	台	台	0 台
平成27年度燃費基準達成車	3 台	4 台	1 台	7 台	台	1 台	16 台
平成27年度燃費基準5%向上達成車	1 台	1 台	台	台	台	台	2 台
平成27年度燃費基準15%向上達成車	台	台	台	3 台	台	台	3 台
平成27年度燃費基準20%向上達成車	台	台	台	台	台	2 台	2 台
平成32年度燃費基準達成車	台	台	台	台	台	台	0 台
平成32年度燃費基準10%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
平成32年度燃費基準20%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
プラグインハイブリット車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
<b>TOTAL</b>	<b>4 台</b>	<b>5 台</b>	<b>1 台</b>	<b>11 台</b>	<b>1 台</b>	<b>6 台</b>	<b>28 台</b>



全社所有車両42車中（営業車・管理車両含む）

## 2. 許認可

### 廃棄物処分量（許可番号、取り扱い品目、処理能力）

#### 2. 廃棄物処分量

##### 【産業廃棄物処分量】

優良事業者認定取得済

- 許可番号 北海道 第00120004747号
- 許可の年月日 2021年（令和 3年）6月29日
- 許可の年月日有効年月日 2028年（令和10年）6月28日

##### 【特別管理産業廃棄物処分量】

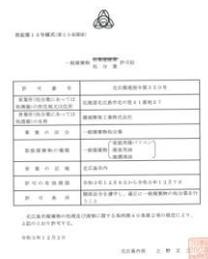
優良事業者認定取得済

- 許可番号 北海道 第00170004747号
- 許可の年月日 2020年（令和2年）10月25日
- 許可の年月日有効年月日 2027年（令和9年）10月24日

##### 【一般廃棄物処分量】

- 許可番号 北広島市 北広環境指令第180号
- 許可の年月日 2021年（令和3年）12月 8日
- 許可の年月日有効年月日 2023年（令和5年）12月 7日
- 許可品目 家庭用廃パソコン、廃食用油、廃潤滑油

No	処理施設名	処理能力	
		1日あたり	1時間あたり
1	汚泥、廃油の油水分離施設1	24.000 m <sup>3</sup> /日 (8h)	3.000 m <sup>3</sup> /h
2	汚泥、廃油の油水分離施設2	24.000 m <sup>3</sup> /日 (8h)	3.000 m <sup>3</sup> /h
3	汚泥、廃油の油水分離施設3	24.000 m <sup>3</sup> /日 (8h)	3.000 m <sup>3</sup> /h
4	汚泥、廃油の油水分離施設4	24.000 m <sup>3</sup> /日 (8h)	3.000 m <sup>3</sup> /h
5	汚泥、廃油、廃アルカリの沈降施設	9.984 m <sup>3</sup> /日 (8h)	1.248 m <sup>3</sup> /h
6	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の切断分離施設1	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
7	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の切断分離施設2	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
8	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の切断分離施設3	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
9	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の切断分離施設4	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
10	廃プラスチック類の圧縮施設1	4.808 t/日 (8h)	0.601 t/h
11	固形燃料（RPF）の製造施設	4.480 t/日 (8h)	0.560 t/h
12	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設1	プ 2.160 t/日 (8h) 金 3.760 t/日 (8h) ガ 4.000 t/日 (8h)	0.270 t/h 0.470 t/h 0.500 t/h
13	廃プラスチック類、金属くず、破碎施設	プ 4.720 t/日 (8h) 金 3.520 t/日 (8h)	0.590 t/h 0.440 t/h
14	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の圧縮分離施設	4.320 t/日 (16h)	0.270 t/h
1	汚泥、廃油の油水分離施設1	24.00 m <sup>3</sup> /日 (8h)	3.000 m <sup>3</sup> /h
2	汚泥、廃油の油水分離施設2	24.00 m <sup>3</sup> /日 (8h)	3.000 m <sup>3</sup> /h



特別管理産業廃棄物処分量

## 2. 許認可

### 廃棄物処分業（処分業保管場所一覧）

#### 2-1 産業廃棄物処分業保管場所一覧

産業廃棄物処分業保管場所一覧				
No	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
保管場所1	廃油	20.00	9.60	容器保管
保管場所2	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	44.00	43.20	容器保管
保管場所3	廃油	40.30	200.00	屋外タンク
保管場所4	廃プラスチック類	45.00	56.00	容器保管
保管場所5	廃油、廃アルカリ (廃クーラントに限る)	33.64	31.60	容器保管
保管場所6	廃油	4.60	7.00	屋外タンク
保管場所7	廃油	4.60	9.00	屋外タンク
保管場所8	廃油	40.30	200.00	屋外タンク
保管場所9	廃プラスチック類	40.00	56.00	容器保管
保管場所10	廃プラスチック類	9.00	10.80	屋内保管
保管場所11	廃プラスチック類	24.94	36.12	容器保管
保管場所12	廃プラスチック類	39.44	63.24	容器保管
保管場所13	廃プラスチック類	23.04	36.24	容器保管
保管場所14	金属くず	20.00	18.12	容器保管
保管場所15	ガラスくず、コンクリートくず 及び陶磁器くず	25.52	36.08	容器保管
保管場所16	紙くず	1.21	1.00	屋内保管
保管場所17	紙くず	1.21	1.00	屋内保管
保管場所18	木くず	24.00	12.73	0.86
保管場所19	廃プラスチック類	17.00	18.12	容器保管
保管場所20	木くず	39.44	72.48	2.50

産業廃棄物処分業保管場所一覧				
No	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
保管場所21	廃プラスチック類	15.00	18.75	2.50
保管場所22	廃プラスチック類	99.40	162.48	容器保管
保管場所23	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	10.00	4.80	容器保管
保管場所24	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	36.00	30.00	容器保管
保管場所1	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	4.60	7.00	容器保管
保管場所2	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	40.30	200.00	屋外タンク

特別管理産業廃棄物処分業

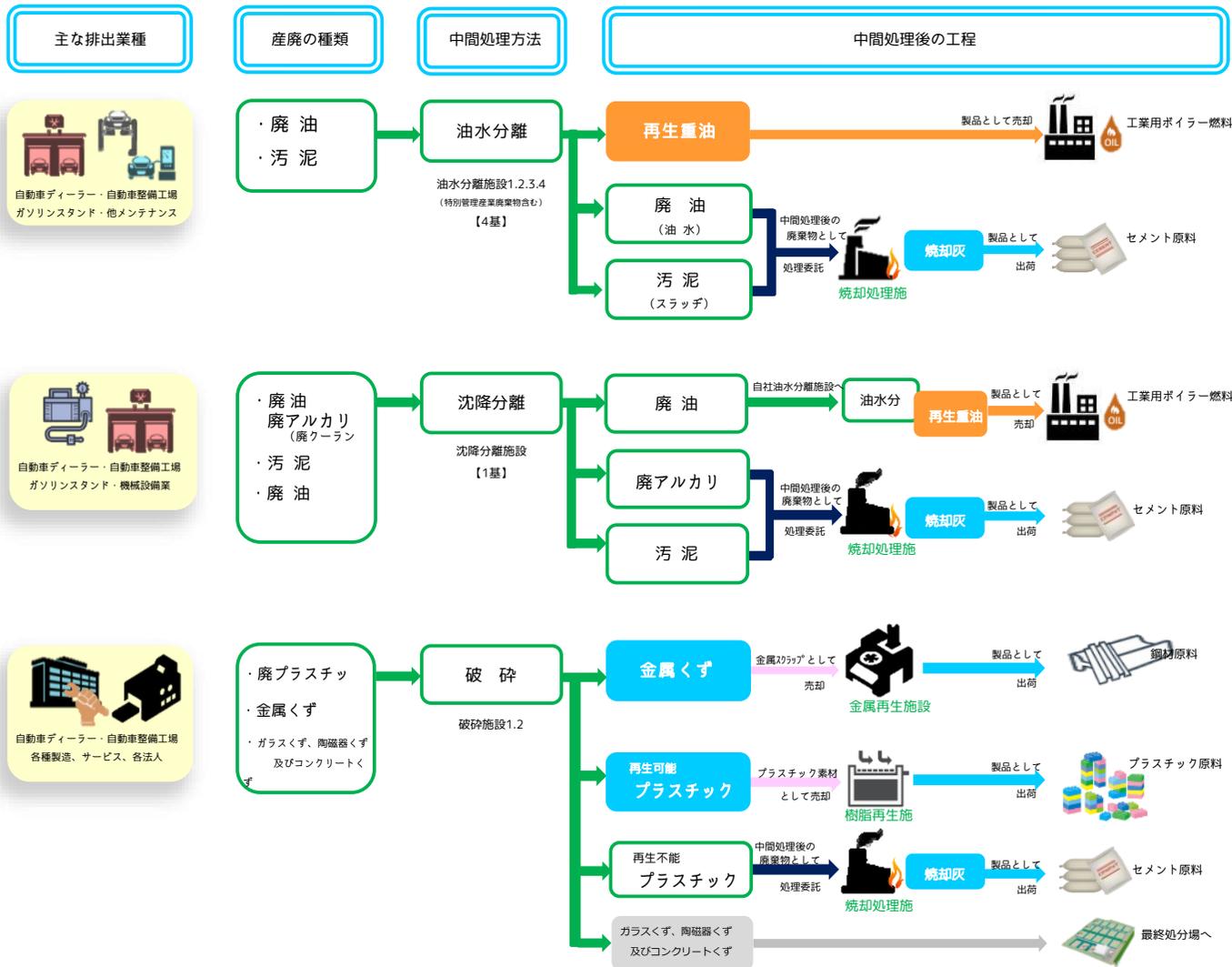
品目別処分業保管場所	産廃	特管	合計
廃油	5 箇所	2 箇所	7 箇所
廃プラスチック類	9 箇所	0 箇所	9 箇所
金属くず	1 箇所	0 箇所	1 箇所
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	1 箇所	0 箇所	1 箇所
木くず	2 箇所	0 箇所	2 箇所
紙くず	2 箇所	0 箇所	2 箇所
混合物	4 箇所	0 箇所	4 箇所
処分業保管場所合計	24 箇所	2 箇所	26 箇所

# 2. 許認可

## 産業廃棄物処分フロー図

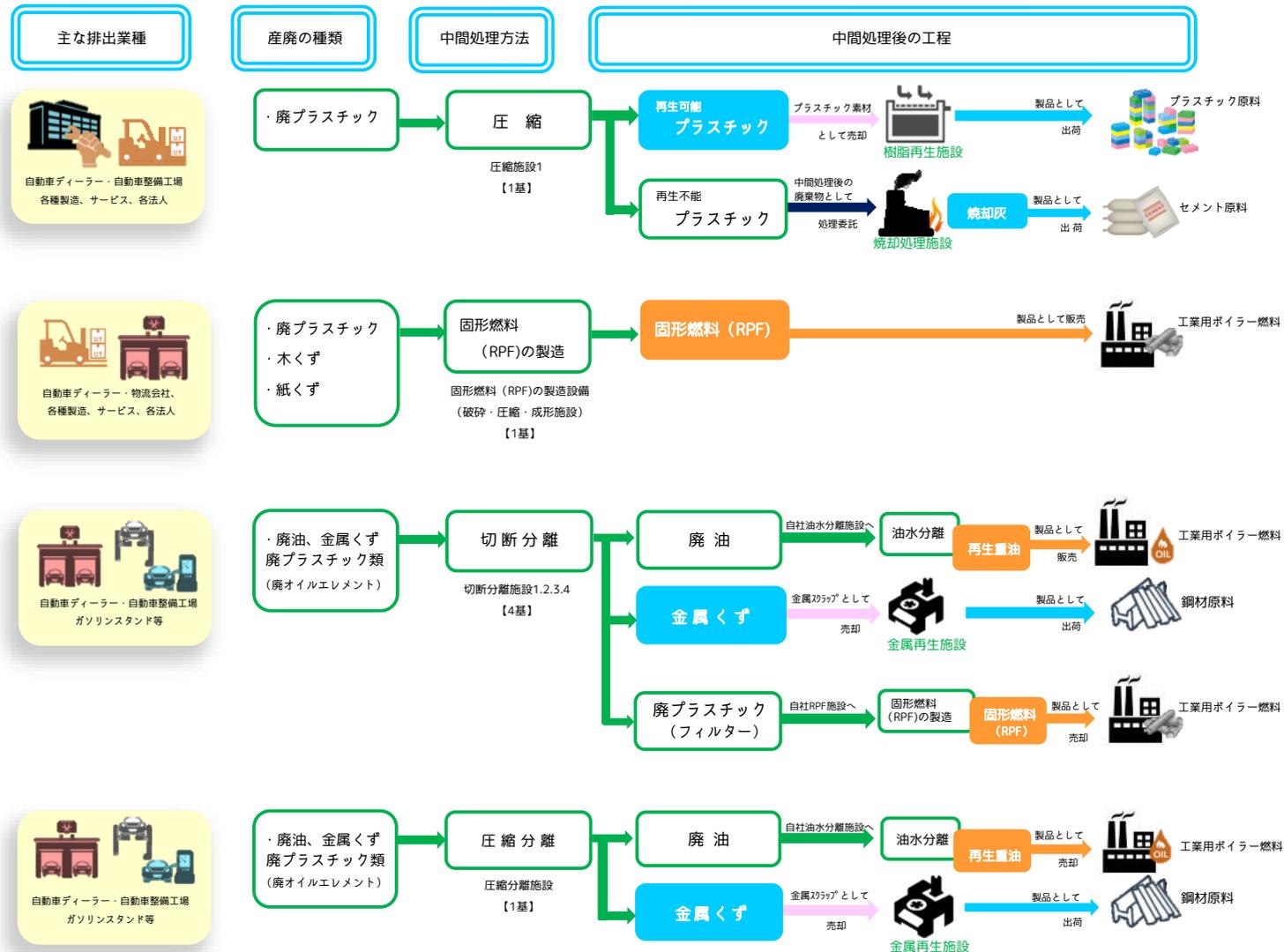
### 2-2. 産業廃棄物処分フロー図

➡ 中間処理   
 ➡ 当社中間処理後の処理委託   
 ➡ 売却   
 ➡ マテリアルリサイクル   
 ➡ サーマルリサイクル   
 ➡ 最終処分



## 2. 許認可

### 産業廃棄物処分フロー図



## 2. 許認可

### 収集運搬実績（2022年度）

#### 2-3 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬の実績（2022年度）

産業廃棄物収集運搬量	
廃棄物種類	収集運搬量
汚泥	197.6 t
廃油	2,281.4 t
廃酸	1.4 t
廃アルカリ	343.5 t
廃プラスチック類	1,240.6 t
木くず	54.5 t
紙くず	0.0 t
金属くず	1,927.1 t
ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず	16.2 t
鉋さい	0.0 t
がれきくず	21.3 t
【混合物】廃油・金属くず	0.0 t
【混合物】汚泥・金属くず	2.8 t
【混合物】廃プラスチック類・金属くず	133.0 t
【混合物】廃プラスチック類・金属くず ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	214.0 t
【混合物】廃油・廃アルカリ	1.3 t
【混合物】金属くず・廃油・廃プラスチック類	610.8 t
産業廃棄物 収集運搬量	7,045.5 t

特別管理産業廃棄物収集運搬量	
廃棄物種類	収集運搬量
廃油	322.3 t
廃酸（pH2.0以下）	0.0 t
廃アルカリ（pH12.5以上）	1.3 t
汚泥（有害）	18.6 t
廃油（有害）	0.1 t
廃酸（有害）	0.3 t
廃アルカリ（有害）	4.3 t
強酸	21.8 t
廃ポリ塩化ビフェニル等（低濃度PCB）	1.5 t
【混合物】強酸・金属くず・廃プラスチック類	1.3 t
特別管理産業廃棄物 収集運搬TOTAL	371.5 t

一般廃棄物収集運搬量	
廃棄物種類	収集運搬量
OA機器	0.0 t
廃油・廃食油	0.0 t

2022年度 収集運搬量TOTAL	7,417.0 t
-------------------	-----------

## 2. 許認可

### 廃棄物処分実績（2022年度）

#### 2-4 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物処分の実績（2022年度）

産業廃棄物 処分量			
廃棄物種類	処分方法	中間処分量	内、再資源化
廃油	油水分離	2,100.0 t	2,016.0 t
	沈降分離	128.2 t	0.0 t
廃油・廃アルカリ	沈降分離	332.7 t	0.0 t
廃プラスチック類	圧縮	62.7 t	18.8 t
	固形燃料（RPF）の製造	168.5 t	168.5 t
	破砕	968.6 t	290.6 t
金属くず	破砕	51.1 t	51.1 t
ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず	破砕	34.9 t	0.0 t
木くず	固形燃料（RPF）の製造	66.3 t	66.3 t
紙くず	固形燃料（RPF）の製造	0.0 t	0.0 t
【混合物】金属くず・廃油・ 廃プラスチック類（廃エレメント）	切断分離	532.5 t	532.5 t
	圧縮分離	133.1 t	133.1 t
産業廃棄物 処分量		<b>4,578.6 t</b>	<b>3,276.9 t</b>

中間処理後の廃棄物処分量			
廃棄物種類	最終処分量	中間処分量	内、再資源化
廃油	0.0 t	162.9 t	0.0 t
廃油・廃アルカリ	0.0 t	238.5 t	0.0 t
廃プラスチック類	7.8 t	697.4 t	0.0 t
汚泥	0.0 t	77.1 t	0.0 t
金属くず	0.0 t	1.9 t	1.9 t
ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず	59.2 t	19.0 t	19.0 t
木くず	0.0 t	17.3 t	17.3 t
がれき類	0.0 t	2.9 t	2.9 t
産業廃棄物 処分量		<b>67.0 t</b>	<b>41.1 t</b>

特別管理産業廃棄物 処分量			
廃棄物種類	処分方法	中間処分量	内、再資源化
廃油	油水分離	0.0 t	0.0 t

一般廃棄物 処分量			
廃棄物種類	処分方法	中間処分量	内、再資源化
廃油	油水分離	0.0 t	0.0 t
	沈降分離	0.0 t	0.0 t
産業廃棄物 収集運搬量		<b>0.0 t</b>	<b>0.0 t</b>

## 2. 許認可

### 建設業許可（とび・土工事業）

#### 3. 建設業許可（とび・土工事業）

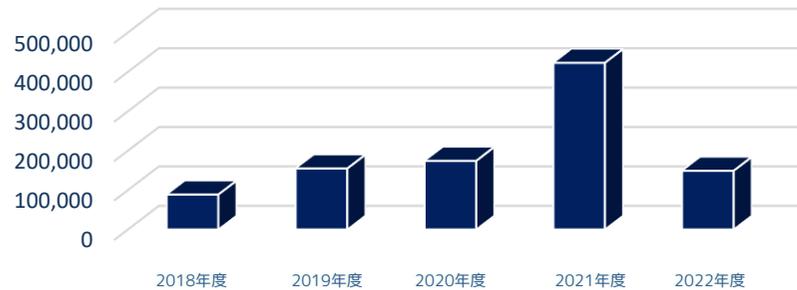
- 許可番号 北海道知事許可（般-31）石第23289号
- 許可の年月日 2019年（平成31年）4月5日
- 許可年月日有効期限 2024年（令和6年）4月4日

建設業の許可票			
発行者名称	環境開発工業株式会社		
代表者の氏名	代表取締役 長谷川 徹		
建設業種別	許可本業種	許可番号	許可年月日
建設業種別	建設 一般	許可番号	23289
一般建設業	とび・土工事業	許可年月日	2019年4月5日
建設業種別	とび・土工事業		

#### ■ 直近6年間の施工実績

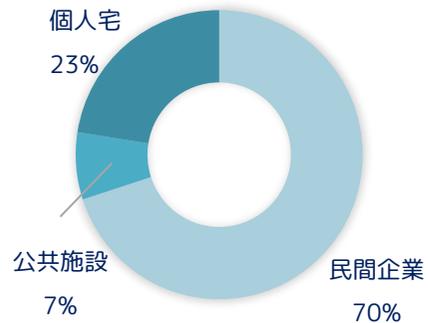
2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
55,965	88,375	154,542	173,961	422,811	148,740

※2021年度は大規模工事請負により平均施工金額を上回る



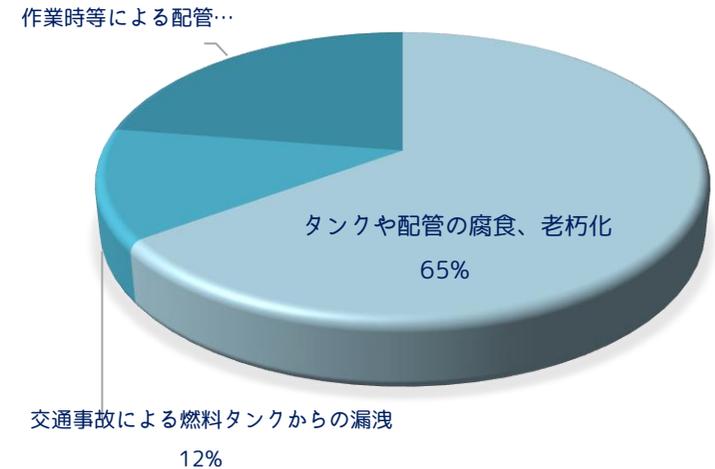
#### ■ 主な発生内容

発生場所	件数
民間企業	28 件
公共施設	3 件
個人宅	9 件



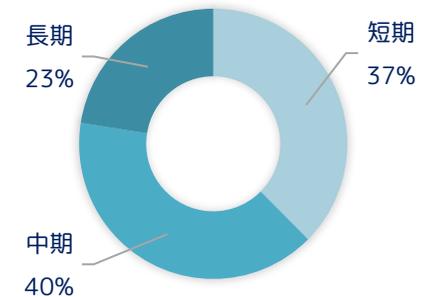
#### ■ 主な漏えい発生原因

漏えい発生原因	件数
タンクや配管の腐食、老朽化	26 件
交通事故による燃料タンクからの漏洩	5 件
作業時等による配管損傷	9 件



#### ■ 主な発生内容

施工期間	件数
短期（数週間）	15 件
中期（数か月）	16 件
長期（年単位）	9 件

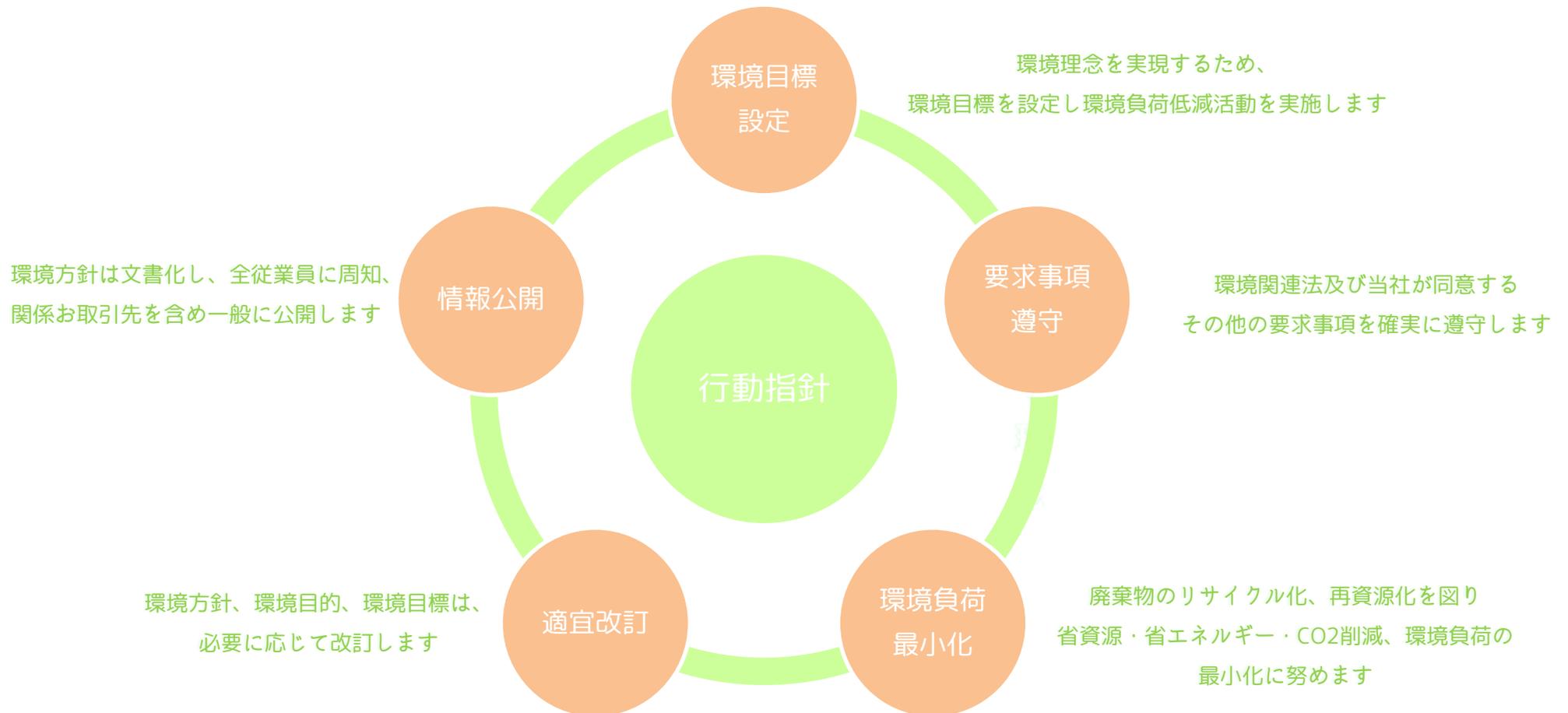


### 3. 環境方針

環境開発工業株式会社は廃棄物処理、リサイクルを主な事業としており、事業そのものの中で不適切な遂行は、直接重大な環境破壊や

汚染を招く事を強く認識・自覚し、当社の最大能力を尽くして適正処理・環境負荷軽減を実行し、

『より良い環境を次世代に継いで行く』事をモットーに地域や社会そして、地球環境に貢献してまいります。



# 4.環境活動計画

## SDGsに貢献する環境活動計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
<b>1・二酸化炭素排出量の削減</b>																	
産業廃棄物収集運搬車両におけるエコドライブの促進と燃費向上							●				●		●		●		
製造・処理施設及び事務所等構内各所における電気及び化石燃料使用の低減							●					●	●				
<b>2・省資源の促進</b>																	
水を扱うすべての構内において節水を意識した使用量の削減							●				●	●					
<b>3・資源循環の向上と埋立量削減促進</b>																	
再生資源化品の生産量向上に努め、循環型社会形成に貢献							●		●			●	●				
廃プラスチック類の分別及び選別の徹底による埋立廃棄物の削減							●		●			●	●				
<b>4・環境配慮製品の利用推進と導入</b>																	
地球環境に配慮したバイオ製剤の利用							●					●		●	●		
環境負荷低減に配慮したグリーン購入品の促進							●					●			●		
車両入替時による大気汚染物質の排出が少ない低公害車導入の配慮							●						●		●		
<b>5・次世代に繋がる環境貢献活動の推進</b>																	
「SDGs」が掲げる17の目標の推進と実行	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
森林維持及び保全活動の支援													●	●	●	●	●
構内から発生する油脂の除去及び構外への漏洩防止							●					●		●	●		
近隣地域及び社会への貢献可能な寄付活動			●	●						●	●	●					●
<b>6・あらゆる人々との協力と協調</b>																	
障がい者、高齢者の積極的雇用	●				●												
意思決定においての女性参加、平等なリーダーシップの機会を確保					●												
社員満足度の向上及び安定収益の維持継続								●									●

# 5. 環境目標・実績

2022年度目標及び取組み結果

## 5-1 2021年度目標及び取組み結果

環境目標項目			単位	主幹部門	前年度実績 2021年10月～ 2022年9月	今年度目標値 2022年度	達成手段	今年度実績 2021年10月～ 2022年9月	目標比	評価
二酸化炭素排出量削減	化石燃料使用量	ガソリン	ℓ/年	管理部門	17,793.0	19,600.0	アイドリング時間の削減	16,750.0	-2,850.0	◎
		軽油	ℓ/年	業務部	24,915.0	240,100.0	急加速・急ブレーキの抑制	244,179.5	4,079.5	×
		灯油	ℓ/年	資源リサイクル部	20,989.5	20,900.0	ウォームピズの推進	17,703.2	-3,196.8	◎
		重油	ℓ/年	オイルリサイクル部	76,000.0	78,000.0	計画通り	80,000.0	2,000.0	×
		LPG	kg/年	オイルリサイクル部	80.0	80.0	ボイラ使用時の着火源の為、現状維持	40.0	-40.0	×
	電力使用量	工場・施設	kwh/年	資源リサイクル部・ 管理部門	442,974.0	436,100.0	第3工場新設に伴い今期要観察	420,847.0	-15,253.0	◎
	二酸化炭素排出量		kg-CO <sub>2</sub> /年	-	1,170,780.3	1,163,212.6	*****	1,214,203.0	50,990.4	×
収集運搬車両 燃費向上		km/年	業務部	3.4	3.6	急加速・急ブレーキの抑制	3.6	0.0	◎	
省資源	水の使用量削減		m <sup>3</sup> /年	資源リサイクル部・ 管理部門	1,784.0	1,700.0	RPF燃料製造時の冷却をスプリンクラー仕様に変更	1,793.0	93.0	×
埋立削減・資源循環	再生資源製造出荷量	再生重油	kℓ/年	オイルリサイクル部	9,955.0	10,100.0	廃油収集量前年同等であるため、要観察	11,923.8	1,823.8	◎
		RPF(固形燃料)	t/年	資源リサイクル部	658.7	650.0	原料分別強化	315.0	-335.0	×
		非鉄・金属	t/年	資源リサイクル部	3,169.0	2,900.0	分別エリア変更に伴い、手法向上	2,931.6	31.6	◎
	廃プラスチック類の中間処理後の埋立削減		t/年	資源リサイクル部	6.9	8.0	分別強化により、RPF原料ヘシフト	7.8	-0.2	◎
品の使用・環境配慮	環境配慮製品促進	バイオ製剤販売促進	本/年	環境リサイクル部	998.0	500.0	原因者に対する浄化処理方法へ提案、促進	932.0	432.0	◎
	グリーン購入(環境配慮製品含む)		種/年	総務部	22.0	15.0	購入時に優先検討	11.0	-4.0	×
	低公害車導入	所有車輛入替時による導入促進	件/年	業務部・管理部門	4.0	3.0	車両入替時に検討	4.0	1.0	◎
社環境活動	森林維持・保全活動	森とアースへのECO-P支援	回/年	総務部	1.0	1.0	オイルリサイクル組合との共同参加支援	1.0	0.0	◎
	環境美化維持	構内外の清掃活動	回/年	全社	37.0	6.0	構内油漏洩防止対策による構内洗浄	12.0	6.0	◎

【評価記号】 ○ ⇒ 目標達成及び次年度継続 ▲ ⇒ 目標未達成であるが、要観察として目標値維持 × ⇒ 目標値変更

# 5. 環境目標・実績

年度別環境目標（中期3か年）

5-2 年度別環境目標（中期3か年）

貢献するSDGs	環境目標項目	単位	主幹部門	初年度実績 2017年10月～ 2018年9月	中期目標値			
					2021年度	2022年度（今年度）	2023年度	
二酸化炭素排出量削減 	化石燃料使用量	ガソリン	ℓ/年	管理部門	21,788.0	20,000.0	19,600.0	19,400.0
		軽油	ℓ/年	業務部	230,021.0	245,000.0	240,100.0	237,650.0
		灯油	ℓ/年	資源リサイクル部	22,191.0	22,000.0	20,900.0	18,700.0
		重油	ℓ/年	オイルリサイクル部	78,000.0	78,000.0	78,000.0	46,800.0
		LPG	kg/年	オイルリサイクル部	80.0	80.0	80.0	80.0
	電力使用量	工場・施設	kwh/年	資源リサイクル部・管理部門	387,936.0	445,000.0	436,100.0	431,650.0
	二酸化炭素排出量		kg-CO <sub>2</sub> /年	-	1,183,437.0	1,184,310.0	1,163,212.8	1,064,004.0
	収集運搬車両 燃費向上	km/年	業務部	3.4	3.5	3.6	3.7	
省資源 	水の使用量削減	m <sup>3</sup> /年	資源リサイクル部・管理部門	1,784.0	1,750.0	1,700.0	1,680.0	
資源循環・埋立削減 	再生資源製造出荷量	再生重油	kℓ/年	オイルリサイクル部	9,955.0	9,500.0	10,100.0	11,000.0
		RPF(固形燃料)	t/年	資源リサイクル部	658.7	600.0	650.0	700.0
		非鉄・金属	t/年	資源リサイクル部	3,169.0	2,900.0	2,900.0	2,950.0
	廃プラスチック類の中間処理後の埋立量削減	t/年	資源リサイクル部	6.9	10.0	8.0	5.0	
環境配慮製品購入・使用 	環境配慮製品促進	バイオ製剤販売促進	本/年	環境リサイクル部	438.0	500.0	500.0	550.0
	グリーン購入（環境配慮製品含む）		種/年	総務部	11.0	15.0	15.0	15.0
	低公害車導入	所有車輛入替時による導入促進	件/年	業務部・管理部門	3.0	3.0	3.0	2.0
社会貢献・環境活動 	森林維持・保全活動	森とアースへのECO-P支援	回/年	総務部	1.0	1.0	1.0	1.0
	環境美化維持	構内外の清掃活動	回/年	全社	6.0	6.0	6.0	6.0

※電力算出係数 北海道電力0.676kg-CO<sub>2</sub>/Kwhを使用

※化学物質の未使用につき目標設定なし

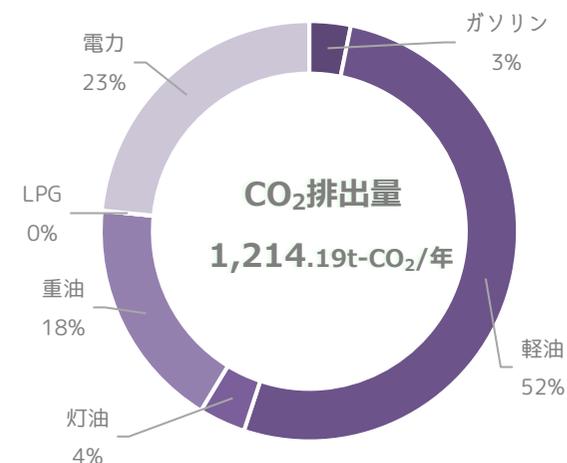
## 6. 環境活動結果とその評価

2022年度目標及び取組み結果

### 1. 二酸化炭素排出量削減



2022年度	エネルギー使用量 (t/年)			CO <sub>2</sub> 発生量 (t-CO <sub>2</sub> /年)		
	目標	実績	差異	目標	実績	差異
ガソリン	19.60	16.75	-2.85	45.47	38.86	-6.61
軽油	240.10	244.17	4.07	619.45	629.84	10.39
灯油	20.90	17.70	-3.20	52.04	44.08	-7.96
重油	78.00	80.00	2.00	211.38	216.80	5.42
LPG	0.80	0.40	-0.40	0.24	0.12	-0.12
電力	436.10	420.00	-16.10	294.80	284.49	-10.31
TOTAL	795.50	779.02	-16.48	1,223.38	1,214.19	-9.19



### 2. 省資源の促進・節水



指定可燃物であるRPF製品の「天かす火災」を防止するため、水槽を設置、水槽内の冷却水を何度も使用する工夫を行った。また、雨天時には予備の水槽に雨水を受け、冷却水の代用。今後もさらに工夫を重ね、水資源の有効活用を図るものとする。



### 3. 資源循環・埋立削減



今年度の埋立量は、さらに昨年よりも引き下げることが可能となった。しかし今期も焼却削減できない結果となった。主な要因はRPF製造において、供給先から指定いただいている埋立率0.3%以内を遵守するため、燃料化不適合素材を排除したことが大きい。



## 6. 環境活動結果とその評価 環境配慮・貢献活動

### 4. 環境配慮・貢献活動



北海道内では多くの灯油タンクを所有していることから、灯油を始めとする多くの石油類の漏えいが発生しており、行政に届けられている案件以上に漏えい事故が発生していると言われています。2016年度より事業化してからの取扱い件数は年々増加しており、同じ油漏えいであっても場所や状況によって施工方法が異なります。また、汚染規模によっては数年に渡って施工する例も数多くあります。

その中でも約2年にわたって行われた弊社最大の施工案件がこのたびようやく収束され、事故発生前の状況に回復致し、その後のモニタリング調査でも異常はないと判断されました。

私どもはこれからも「地球環境を守る」という強い使命感をもって、あらゆる漏洩現場に対応して参ります。



水芭蕉が群生している風景  
漏えい事故当初はこの状況に  
戻るか不安だったが、無事  
現状回復に至った

浄化したあとの小川  
「おたまじゃくし」が春の  
訪れを告げるまでに回復



### ■主な施工方法

「油漏洩対策」はおよそ13種類の方法があるとされています。

当社では主に3種の方法で対応、中でも「バイオレメディエーション 生物学的環境修復工法」(※環境省認可済)を中心に進めております。

「バイオレメディエーション 生物学的環境修復工法」とは？

微生物や菌類、植物等を利用して有害物質に汚染された  
自然環境を元の状態に戻すことを意味します。

- 油を食べる微生物を利用した生分解剤を使用
- 微生物は無害で、食べる油分がなくなると死んで土に還る

※施工事例詳細は、18ページの4. 環境配慮・貢献活動をご覧ください



バイオレメディエーション工法で  
使用している2種の生分解剤



# 6. 環境活動結果とその評価 環境・社会貢献活動

## 5. 環境・社会貢献活動

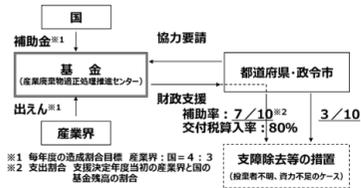


### ■ 寄付活動による社会貢献

SDGsの目標でも掲げている社会貢献活動。今期も業績好調により、収益の一部を各方面へ寄付という形式で貢献いたしました。

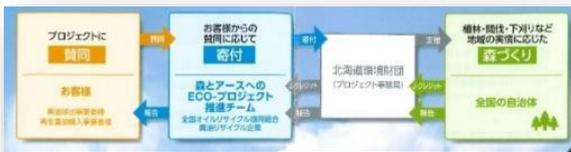
#### ① 環境省 産業廃棄物による支障除去のための基金への寄付

廃棄物の適正処理は排出事業者に課された責任であり、それを担うわが社としては不法投棄の未然防止、不法投棄撲滅の観点より微力ながら、この度基金への寄付を行いました。不法投棄は生活環境保全上の支障が生じ、原因者等が不明な場合には、都道府県等が代執行を行います。その費用は産業界と国が積み立てた基金の一部より補助しています。私たちの産業界が行う取組姿勢を今後も支援していくとともに、より良いきれいで住みやすい市町村、街づくりに貢献できればと思っています。



#### ③ 森とアースへのecoプロジェクトへの参加

本プロジェクトへの参加も今年で8年目を迎え、廃物リサイクルを今後も日本各地の森づくりにお役立ていただき少しでもCO<sub>2</sub>が吸収されることを願っています。



#### ② 地元への社会貢献 北広島市消防本部へ物品寄贈

毎年地域貢献の一環として北広島市へ寄付金を贈呈しているが今年には危険物を扱う中で多くの接点がある北広島消防本部に対し、物品寄贈を行った。消防本部の活動として地域子供たちを招いての火災啓蒙活動や消防署の見学会やイベントを行う中で利用いただける物として今回の物品寄贈となった。また、日頃の会議や啓蒙サイネージとしても活用いただけるデジタルホワイトボードも同時寄贈。業務効率はもちろんのこと火災防止対策の一助になればと思っています。



#### ④ 公益財団法人日本ユニセフ協会

世界中の子どもたちの命と健康を守るために活動するユニセフ協会に対し、世界のどこに生まれても、持って生まれた可能性を十分に伸ばして成長できるよう、今後も支援活動に賛同していきたいと思っています。



#### ⑤ その他

日本対がん協会 (ピンクリボン活動)  
 北海道科学大学、日本赤十字社



# 6. 環境活動結果とその評価

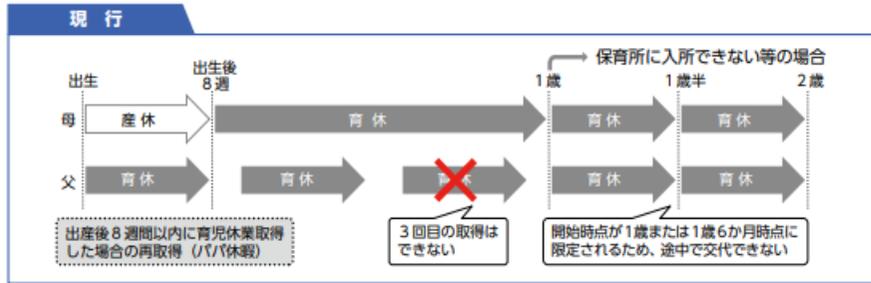
環境・社会貢献活動

## 5. 環境・社会貢献活動

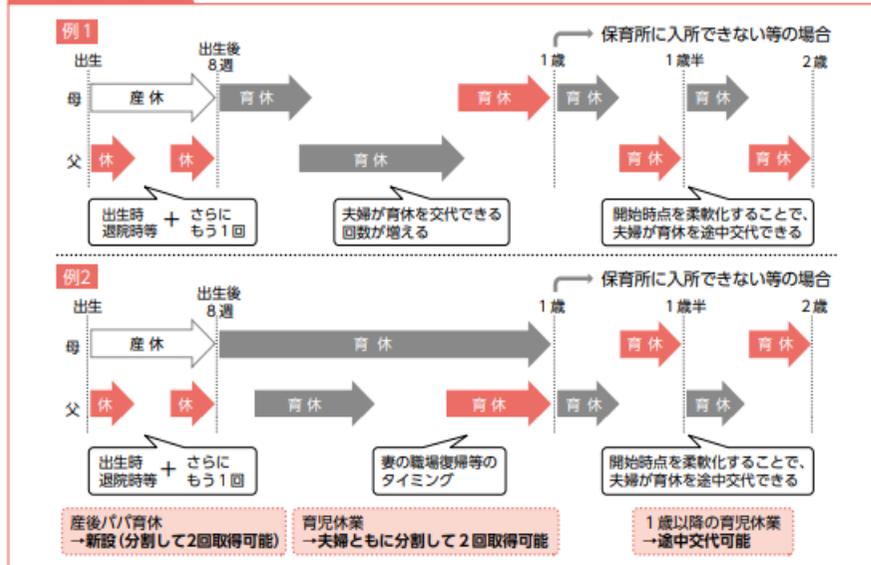


### 働き方改革 男性社員初の育児休暇取得

男性社員の育休取得推進が叫ばれる中、創業46年目で初めて男性社員が育休を取得。新たに創設された「産後パパ育休」制度も再度利用してもらい社としても積極的に育休期間中の業務をフォローし、男性社員の育児参加を支援した。



令和4年10月1日～ ➡ ピンク色の矢印が、今回の改正で新たにできるようになることです



育休取得者 資源リサイクル部 工藤聡一郎(29歳)入社2年目  
結婚2年目で授かった子はまさかの双子。妻も仕事を持ちながらの双子の妊娠は非常に体の負担も多く、産後は夫として積極的に子育てしなければならないと考えていました。しかし、入社して間もない自分が育休を取得していいのか、そして男性が取得していいのか、悩むところもありましたが、上司や同僚含め出産前より取得を進めてくれました。夫婦で初の子育てかつ双子は想像を超えるほどの毎日でしたが、育休を取得したことで、妻の偉大さ、協力してくれた家族への感謝、そして子育ては妻任せではいけないと実感しました。また、10月には新たに創設された「産後パパ育休」を利用させてもらい再度育休を取得しますが、快く後押ししてくれた上司、同僚に感謝しながらしっかりと子育てに向き合い日々成長する二人の息子達に愛情を注ぎたいと思っています。そして、育休明けはより一層会社に貢献できるよう、業務に励んでいきたいと思っています。



## 7. 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

### 7-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果

法区分	遵守事項	遵守評価
産業廃棄物処理法	委託契約書の締結	◎ 全顧客契約締結及び原本5年間保管
	マニフェスト伝票の管理	◎ 原本5年間保管
	処分保管量の遵守	◎ 適正保管量、期間の遵守
	積替え保管量の遵守	◎ 適正保管量、期間の遵守
	運搬車の表示と許可証写、マニフェスト携帯	◎ 全許可車両遵守 車両4車新規追加
	収集運搬業内容の変更	◎ 2021.6 優良認定にて許可更新
	処分業内容の変更	◎ 2021.6 優良認定にて許可更新
	処理施設内容の変更	◎ 変更なし
	産業廃棄物処理施設実績	◎ 2022.6 北海道へ報告
	産業廃棄物処理実績	◎ 2022.6 北海道へ報告
	産業廃棄物管理票交付等状況	◎ 2022.6 北海道へ報告
	産業廃棄物収集運搬実績	◎ 2022.6 札幌市へ報告
	産業廃棄物処理実績	◎ 2022.6 北海道へ報告
産業廃棄物管理票交付等状況	◎ 2022.6 北海道へ報告	
消防法	危険物施設、設備全社構内	◎ 2021.10月 移動タンク年次立入検査 特段、指摘事項なし

法区分	遵守事項	遵守評価
騒音振動	特定建設作業（工事）に伴い発生する騒音・振動	◎ 特定建設工事の請負実績なし
大防 法	炉筒煙管、水管ボイラ 煤塵、Sox、Nox 3項目の2回以上/年の測定	◎ 基準値内
フロン 抑制法	タイヤショベル及び事務所内業務用 エアコンの定期点検（4回/年）	◎ 2022.8 定期点検実施
海洋汚染 防止法	事業実績報告	◎ 2021.10 北海道運輸局へ年次事業報告
家電R法	リサイクル券の発行	◎ 今期家電廃棄なし
自動車 R法	リサイクル券の発行	◎ 車両4台導入 リサイクル料金購入時清算
公害防止 条例	騒音・振動発生施設 コンプレッサー：2基 遠心分離機：2基	◎ 既存設備以外の届出発生なし

### 7-2. 違反・訴訟の有無

特になし

## 8. 代表者評価

### 8-1. 代表者による全体評価と見直し

【環境方針】 変更有無 ⇒ なし

本方針は当社の企業理念を軸にし、事業内容とマッチングしているため、当面は本方針をベースとして運用を行う。

但し、環境方針とは別途「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に向けた取り組みも同時並行する。

【環境活動計画】 変更有無 ⇒ なし

#### 5.次世代に繋がる環境活動の推進

「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に向けた取り組みも同時に遂行する。

但し、2022年度に向け、17すべての目標を遂行できるよう、模索すること。

【環境目標】 変更有無 ⇒ なし

#### ■二酸化炭素排出量削減 化石燃料使用量

本年より中期計画見直し時に化石燃料の取扱いについて大幅に見直した。

特に軽油使用量については回収範囲の拡大に伴い、単純な使用量ではなく使用率も鑑みながら、目標値を設定する。

#### ■資源循環・埋立削減

RPFの納品スペック（塩素0.3%以下）を遵守するため、適合原材料が減少しているが、分別方法の見直しや治具などを検討し製造量増産に務めること。

### 8-2. 代表者による総括

2020年より本格化したコロナウィルスまん延による終息が見えない中ではあるものの、政府の指針以外にもわが社独自の感染対策を実施し、業務が滞ることなく、収益増にも貢献した。エコアクション21プログラムの運用面においては、CO<sub>2</sub>削減も微減ではあるが達成出来た。しかし、2030年度43%減までには程遠く、この数年内に設備を見直し、あらゆるステークホルダーの方々にご納得いただける計画を遂行しなければならない。2024年に新たな中期計画を立案するうえで、CO<sub>2</sub>削減を軸に働きやすい設備の導入を検討していく。尚、創業者である長谷川四郎から引継いだわが社は、2022年10月3日をもって石油卸販売を主体としている「富士興産株式会社」への株式譲渡を行い、同社グループ企業の一員として新たな時代を迎えます。他にもホームエネルギー事業、レンタル事業を展開するグループ会社に加わったことで、新たな事業展開やグループ各社で相互連携によるシナジー効果が期待できるとともに、わが社が長年培ってきた事業ノウハウ、営業基盤、経営資源を活用した中長期的な成長と企業価値の向上を図ることが可能であると考えています。

創業当時のわが社の基本理念である『より良い環境を次世代に継いで行く』を更に加速させるとともに、お客様、そして社会から必要とされ続ける企業として今後も尽力して参ります。

2022年9月30日

環境開発工業株式会社  
代表取締役

長谷川 徹